

令和6年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校			
建学の精神	基本的生活習慣(幟)の育成をとおり、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. すべての人にとって、安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の推進	新課程3年目を迎え、全ての学年に新しい学習評価が適用される。旧課程では考査得点に大きなウエイトがあったため、点数が取れない生徒が成績会議に名前が挙がっていたが、授業や課題への取り組み姿勢にも同等のウエイトが置かれることにより、成績会議対象者が減ってきている。	新課程の学習評価をより適切に行うために、各教科で使用教材や学習方法を見直し、改善点を模索する。Chromebookを有効に活用できるように他校の様子に目を向け、研修等を積極的に活かす。	令和8年度入学生用から教科書の改訂が行われる。そのタイミングに合わせて、各教科で教科書と副教材の見直しをしていきたい。また教育課程についても、各教科の意見を確認し、各コースの目標や目的により適したものに設定できればと考えている。Chromebookの使い勝手についてもメーカーや機能の確認をしていきたい。	教科書教材を令和6年度からかえた教科、令和7年度からかえるように申請している教科、令和8年度から変える方向で考えている教科など、新課程の初めで選定したもののから実態に合わせて改善しようとしている教科がいくつかある。また、評価を高く出過ぎている科目については、成績会議の中で注意を促している。	B	B		令和6年度から新課程が実施されてから3年目になり、全学年が新課程の学習評価に統一されている。旧課程においても特定の科目・担当者において、平均点が高く出しまう傾向があり、成績会議において注意を促していた。新課程の評価では、知識・技能の観点においては、テストの点数によって評価が決まるため、取った点数によって自動的に評価が決まるようになっていく。思考・判断・表現および主体的に学習に取り組む態度の観点においては、提出物や授業中の様子によって担当者が個別に判断することになる。この部分で提出物の中身をきちんと確認して差をもうけることや、主体性についての考えをきちんと理解することに気を付けたいと、評価が高く出過ぎる傾向がある。このあたりを再度伝達する必要があるように感じる。
		進路	進路保障を担う進路指導の充実	昨年度も総合型選抜や学校推薦型選抜の生徒は182名となり全体の83%に達する。そのうち、看護専攻科に内部進学した生徒を除けば、72%が県内外へ進学していたことになる。受験形態の内訳は、以下になる。総合型選抜36%、学校推薦型選抜56%、一般選抜8%であった。	＜1年次＞職業観の育成をテーマに、地元で活躍される社会人へお越しいいただき、職業ガイダンスや職場体験を展開する。「働くとは」「お金を儲けるとは」「社会に貢献するとは」「仕事の面白さや「甲斐」など、聞いたことのない経験することで社会人先生から学ぶ。	＜1年次＞職業観の育成を目標に第一弾、「社会人先生に聞く」(約30社参加)を実施した。夏休目前には「社会人インタビュー」の課題を出し、休み明けにWeb(校内版)公開し共有した。9月には職場体験前の「マナー講習会」(マイナビ)を実施し、挨拶、電話かけ、名刺交換の練習をした。現在、職場体験に向けて事前学習に取り組んでいる。	【進学】 A	B		1年生から3年生にかけて進路の達成目標を設定している。1年生は「職業観の育成」、2年生は「キャリアアップ」、3年生は「進路実現」である。昨年度から学年ごとの目標を設定したことで、各学年における取り組み目的が明確になった。指導する側も目標に応じて各コースの実践内容が整備され、やりたいたことの意味づけがはっきりしたことは生徒も指導者にも相乗効果が働いて良かった。一方で進路指導は担任の指導力に左右されるため、クラスごとに差がでてしまう。進路指導部が関われる範囲も限られているため、学年、担任、進路指導部のさらなる連携も課題である。3年生の進路実現に向けた3年間の流れは他に例のない本校独自の実践となり有意義なものとなっている。取り組みに関しては高1階層でできる。しかし、当然ながらに目的や実践内容が整備されることで実践する側も指導する側も十分な理解や配慮が求められる。内容の高度化、外部機関との連携に備え一つの失敗が組織の失敗を引き起こす可能性がある。担任は特に理解を深める努力が必要である。そしてそのサポート役にも学年が判らなければならぬ課題となる。進路指導部は学年の意向に応じ学年や担任のサポートが必須である。ただし、学年の意向が適切かどうかの判断も重要だ。進路役割は益々高まり、外部とのポイント・企画の立案だけでなく実施計画など綿密さを求められる。現在のところ、多少のマイナー変更はあるにせよ、目標と取り組み内容までは完全に近づいてきている。後はとにかく組織化である。本校は横割りの組織になっているため、毎年学年ごとに提案をする必要がある。また進路指導は「総合的な探究の時間」を活用して取り組んでいるため、進路指導と探究活動が混在する、その棲み分けが難しい。単位を増やすことも検討していきたい。今後はコースごとに連携した組織作りや学校としての方針を検討し教職員全体で共有していきたい。
		情報	BLEND機能の積極的活用とchromebook利用の教員研修	今年度より1人1台端末は高等学校3学年整備済みとなった。いまだに教科や授業によって、積極的に活用されていない場面もある。授業以外の課外活動においても、活用できていない現状がある。	ICT機器を授業以外での活用を推進する。同時に生徒の情報活用能力の育成を行っていく。教職員への活用研修や相談会を学期に1回は開催する。	ICT機器をクラス朝礼で活用推進を研修を通して実施する。また、生徒の情報活用能力を向上するよう取り組みを実施していく。探究学習や部活動など課外活動での活用を推進したい。そのための研修を実施する。	B	B		一人一台端末の活用場面が多くなっている。より良い指導のための端末を活用する先生方が増えている。更なる取り組みの向上、教育活動の最適化と効率化のために教職員向け研修の実施をしていきたい。また情報システム部としても先進的な事例を学び提供していきたい。
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	出欠についてはBLENDへの入力漏れや入力ミスがあると正確な欠時数が把握できないため、小まめな点検が必要である。学年部長が入力されているか日々注意して確認をされており、BLEND導入時よりも格段に漏れが少なくなっている。	担任・学年部長・授業担当者で連携を図り、出欠入力を徹底するとともに、欠時数が増える傾向にある生徒を把握し、早期の段階で生徒や保護者への指導を行う。	担任が1日の終わりに全ての出欠が入力されているかを点検し、それを最終的に学年部長が確認して出欠一覧表を教務部に提出する。長欠や教育的指導の生徒は手書きでの記載をする。今年度は教務部の方でも入力漏れがないかを確認するような担当を各学年設定している。	学年部長の日々の点検により、概ね出欠入力が漏れなく行われている。中には漏れはあっても、勘違いや気が付かずに関連した記事を入力しているケースがあり、ただ入力されているだけでなく、特に、遅刻や早退についてはいつまでか「いつから」の部分に細やかな点検が必要である。	B	B		担任の1日の出欠の入力については、まず朝礼で入力をするが、遅刻や早退があると修正が必要になるため、終礼が終わった段階で、忘れないうちに1日の出欠入力ができているかの点検を行うことが大事である。これを他の者が確認しても正確には分かりづらいので、担任の先生が小まめでないことと正確ではなくる。学年部長の先生はこれを毎日監督することは大変であるが、出欠統計を教務部に提出する段階で、全クラスの確認をしていただく責任を請け負っていただきたい。
		生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブルが絶えることがなく、教員が間に干渉して解決する場面もある。また、登下校時の交通マナー等について近隣住民からの苦情も入ってきている。	人間関係によるトラブルについては、相手の気持ちを考えた上での発言や行動を意識させる。交通マナーについては、門前指導等で指導していく。	4月当初「ネットモラル教室」においてネット犯罪等の被害や予防策について考えさせる。SNSによるトラブルについては、教育目標を意識したより良いコミュニケーションの取り方を指導していく。交通マナーについては、「交通安全教室」等により、「自分の命は自分で守る」という意識を向上させるよう指導していく。	B	B		生徒間のSNSによるトラブルについては、文字だけでは自分の気持ちを正しく伝えることができないことや、相手の表情や口調、声のトーン、仕草など読み取ることで誤解を招くこと等を伝えていき、文字だけのやりとりではinputする情報が少なくない。正しいoutputに繋げられないことを意識させ、学校目標にもつなげていきたい。交通マナーについては、引き続き門前指導によって指導を強化し、あわせてヘルメットの着用も呼びかけたい。生徒会とも連携しながら、登校時や下校時にヘルメット着用の呼びかけ運動等も行っていく。
		生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	1クラスにおける男女比の違いや生徒の人間関係を理由に、自分の教室に居場所を感じられない生徒がいる。他者に配慮した言動とは何か、人権教育を通して、安心、安全な学校生活を点検していく必要がある。	人権教育講演会及びLHRの感想文で生徒の考えを知る。また学校生活アンケートやhyper-QUを実施と分析を行い、場合によっては、適切なタイミングでSOを活用する。	学校生活アンケートの内容を一部見直し、変化をつける。またアンケート等によって知り得た情報や各委員会で出てきた情報を、分かりやすく共有し、日常生活の中で、生徒への声かけ等を教職員全体の共通理解とした。	A	B		今学期も学校生活アンケートはこのままの形で継続していきたい。声かけに必要な生徒に対しては、学校生活だけでなく、授業でも目配りや配慮が必要になってくる。各教科担当は担任に現状を報告、共有することも当然必要だが、教科レベルでも、やれることは行い、生徒指導に当たらないといけなと感じた。
3. すべての人にとって安全・安心な学校生活空間	環境美化	SDGsの理解と実践	様々な地域から生徒が集まっているが、ゴミの処分のルールも自治体によって異なっている。また、在校生の中には分別がルールになっている生徒も見受けられる。校内の掃除の徹底ができていない箇所もある。	環境・健康やエネルギー問題を意識し、実践できるようになる。また、物を大切に使用し、公共の場の美化に努める行動を取れるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通し、ゴミの分別や、ゴミを減らすやり、節電や清掃活動など、環境を考えた行動や、健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。	各地域によってゴミの分別のルールが違うため、徹底できていない面が見受けられる。また、教室を含め校舎内において清掃がきちんとできていない箇所も目立つ。	C	B		公共のものや場所などの扱いがきちんとできていないように思われる。誰かがいてくれるだろうという雰囲気があり、もっとみんなが自主的に行動できるようになって欲しい。図書館やトイレなど新しい施設もできるため、きれいな状態を保つようにしていきたい。また、節電や節水などの取り組みがエネルギー問題に関係し、それが地球の環境に影響することまで意識させるように啓発活動を行っていく。
		事務	施設の整備・点検	施設老朽化に伴う危険箇所の修繕、機器設備等の更新。	・1校舎のリノベーション ・第2体育館のLED化(暗い・危険) ・第3、第4校舎のLED化	・1校舎リノベーションについては、新図書館工事で令和7年度に先送りとなった。 ・第2体育館のLED化は実施済。 ・第3,4校舎のLED化は来年度以降に先送り。	B	B		新図書館工事・1階中央1Fの工事が10月中旬に完成予定。図書館工事・トイレ工事が定期的に重複したことにより、合わせて予算事情により、来年度に先送りとなった。第2体育館のLED化を実施し、見えるような明るさとなった。第3,4校舎のLED化については、来年度必ず実施したい。
		総務	情報発信の強化・保護者との連携	生徒募集関係の行事をより充実させるべく企画立案を進めている。教育振興会活動においては、コロナ禍で中止または形を変えていたものを従来の形に戻すことで、活動の再活性化を図るべく、各行事の計画に取り組んでいる。	情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	オープンスクールや学校説明会開催の周知を早くに行うこと、そして特にオープンスクールの内容を充実させること、また、本校教育について広くアピールする。また、機関紙「北振」、登校視察、交流会等の教育振興会活動を通して保護者との連携を強化する。	B	B		教育振興会の活動について、コロナ禍以前のように各専門部で行事を実施できるようになっており、保護者間の連携に繋がっている。特に、企画体育部での活動が目玉とされており、6月に行った親睦球技大会が好評を得たため、10月下旬に再度実施することが決定した。また、体育祭のバザーでは、多数の評議員の方に協力いただき、学校行事を盛り上げていただいた。生徒募集行事について、夏のオープンスクールでは生徒参加者が昨年度と比較して123名増加、秋のオープンスクールでは51名の増加となった。新制服、新図書館の情報発信が奏功した結果ではないかと思われる。看護科対象松江地区学校説明会については、生徒保護者を含めて6名の参加であった。会場費等を動員すると1名でも入学に繋がれば、費用対効果に見合うものになるはずである。10月以降についても生徒募集関係行事が控えているため、円滑な実施に努めたい。
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われる予定である。	地域からの活動依頼に積極的に応えと共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	あいさつ運動の実施や地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に取り組んでいる。	9月に校外美化活動を実施した。生徒会が主ではあったが、多くの生徒が参加してくれた。地域の活動ではないが、皆生トリアスロンのボランティアへの参加や、献血への協力も例年行っている。	B	B		今後、あいさつ運動の実施や、美化活動を通して、地域に貢献できるようにしていきたい。トリアスロンのボランティアはコロナ前であれば多くの部活動の生徒が参加してくれたが、近年は個人の希望者がほとんどで人数も少なくなっているため希望者が増えるように考えていきたい。献血も今年度は猛暑の影響なのか希望者の半数が適応できなかった。献血セミナーなど実施して希望者を増やすなど社会貢献できるようにしていきたい。
		生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導、ヘルメット着用の呼びかけ等を実施している。ヘルメットの着用率が依然として低く、また、挨拶を積極的に行うよう自転車マナーとあわせて改善が必要である。	日頃より交通ルールを遵守するよう心がけさせ、さらにはヘルメットの着用率を上げる策を講じる。また、挨拶を積極的に行うよう指導していく。	先生方のご協力によって毎朝の門前指導(挨拶・交通マナー・服装指導)を実施し、生徒の規範意識を向上させている。また自転車通学の生徒に対して「ヘルメットを購入しているか」「きちんと着用しているか」等を確認する進学許可願を年度毎に提出させ、ヘルメット着用率の向上を目指す。	B	B		ヘルメットの所持率はかなり上がってきているが、着用率となるとあまり高くない。2、3年生にも自転車通学許可願の再提出を義務化した。ヘルメットの着用率の向上につながっていないのが現状である。また、門前指導をしている中で、元気が挨拶をしってくれる生徒もいれば、金銭さえせずに素通りする生徒が見られ、残念な気持ちになることもある。さらに、服装違反等で指導を受ける生徒もまだまだ多い。
		看護	医療・福祉施設、地域との連携	・新型コロナ感染症以降、医療専門職への関心は高まっている。生徒は高校2年次より臨地実習のため医療福祉施設との連携も重要となってくる。 ・効果的な学習や、地域で暮らす人々を支えるために引き続きの調整が必要である。	・感染予防対策の習慣化 ・カンファレンスをおとして、臨床指導者との連携をはかる。 ・日々の学習、実習記録の練習など臨地実習 ・国家試験 模試の効果的な利用、模試後の勉強会の実施	感染予防対策を行いつながら、臨地実習を行っている。気温の変化などあり体調を崩す生徒が数名ある。臨床指導者との連携を図りながら、臨地実習は展開出来ている。専攻科2年生は臨地実習中であり、国試の取り組みとしての日々の学習や効果的な学習までは至っていない。	B	B		体調管理、手洗い・マスクの着用など感染予防対策を行っていたが、卒業試験期間中にインフルエンザの流行など重なり、出席停止となる生徒が複数あったため、来年度は卒業考査などの期間を検討していきたい。臨地実習では今年度初めて労災病院との実習ふりかえり会をおこない、来年度に期間話し合いができれば連携をとることができた。国家試験に向けて、学習計画や日々の学習に取り組めるよう指導をも模試なども活用し、模試反省会や国家試験対策などしっかりと行い看護師国家試験対策をおこなった。全員合格を目指す
5. 特色ある教育の推進	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	総合的な探究の時間を活用し、1年次「社会人先生に聞く」、「職場体験」を実施し地元企業様と連携し職業観の育成に努めた。2年次は米子市や大山町など地域と連携しボランティア活動、また地域の自然や歴史とのか合い、地域にある課題を解決するなど取り組んだ。大学と連携した学問探究を実施した。	学年やコースの探究テーマに則した活動をする。その中で課題解決に向けた情報収集や情報分掌など仲間と協働して取り組む力を磨くにつけていく。また、課題のまとめや発表といった表現力を高めることを目標とする。	1年次はガイダンスや職場体験を通じて「職業観」を学び今後の高校生活をどのように送るべきか「なりたい自分」×「高校生活」レポートの作成する。 2年次は「なりたい自分」に近づくために、ボランティア活動や地域・学問探究を通じ表現力を高める。また資格取得等自分磨きに励む。 3年次は「進路保障」を目標に志望理由をまとめる。面接練習実施。	1年生は1学期に「社会人先生に聞く」、2学期に「職場体験」を実施。年間を通じて商業間の育成と企業様からいただいた課題にチャレンジしている。2年生は「地域探究」「ボランティア」「学問探究」を実施。地元自治体や企業様、高大連携を活用し、期間中の大学に研修へ行くなど多方面へお世話になり課題にチャレンジしている。3年生は、1年か実施してきた探究を活用し(就職・進学)の志望理由につなげた指導を実施した。また、社会に出る前に知っておきたいことをテーマに、外部の関係機関より講演をいただく。	A	B		1年生は1学期に「社会人先生に聞く」、2年生は「職業観の育成」、3年生は「キャリアアップ」、3年生は「進路実現」である。昨年度から学年ごとの目標を設定したことで、各学年における取り組み目的が明確になった。指導する側も目標に応じて各コースの実践内容が整備され、やりたいたことの意味づけがはっきりしたことは生徒も指導者にも相乗効果が働いて良かった。一方で進路指導は担任の指導力に左右されるため、クラスごとに差がでてしまう。進路指導部が関われる範囲も限られているため、学年、担任、進路指導部のさらなる連携も課題である。3年生の進路実現に向けた3年間の流れは他に例のない本校独自の実践となり有意義なものとなっている。取り組みに関しては高1階層でできる。しかし、当然ながらに目的や実践内容が整備されることで実践する側も指導する側も十分な理解や配慮が求められる。内容の高度化、外部機関との連携に備え一つの失敗が組織の失敗を引き起こす可能性がある。担任は特に理解を深める努力が必要である。そしてそのサポート役にも学年が判らなければならぬ課題となる。進路指導部は学年の意向に応じ学年や担任のサポートが必須である。ただし、学年の意向が適切かどうかの判断も重要だ。進路役割は益々高まり、外部とのポイント・企画の立案だけでなく実施計画など綿密さを求められる。現在のところ、多少のマイナー変更はあるにせよ、目標と取り組み内容までは完全に近づいてきている。後はとにかく組織化である。本校は横割りの組織になっているため、毎年学年ごとに提案をする必要がある。また進路指導は「総合的な探究の時間」を活用して取り組んでいるため、進路指導と探究活動が混在する、その棲み分けが難しい。単位を増やすことも検討していきたい。今後はコースごとに連携した組織作りや学校としての方針を検討し教職員全体で共有していきたい。

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C: 取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である